



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

附属滝井病院リニューアル計画策定



新附属滝井病院の完成予想図(一部変更の予定あり)。

CONTENTS

附属滝井病院リニューアル計画	2	学生のページ 「国外臨床実習の成果」報告会を開催	12
特集 2013年 入試改革	3	病院	12
法人 業務改善コンテストの取組み事例を紹介	6	附属看護専門学校 特集 学びを紹介	16
本学と枚方市が連携協定を締結	9	卒後臨床研修センター	19
大学 解剖体追悼法要と遺骨返還式を挙	10	同窓会	19
医学教育ワークショップ開催	11	メディア情報・お知らせ	20

附属滝井病院リニューアル計画

理事長 山下 敏夫

本学の附属滝井病院は老朽化、狭隘化などにより、リニューアルの必然性が永年にわたり法人のなかで大きな課題となっておりました。しかし、近年、枚方病院、香里病院、枚方新学舎の建設など、多額の資金を要する事業が続いてきたため、そのリニューアルは本学の財務状態を慎重に見極めながら決定する必要がありました。幸いにも平成23年度の法人決算は好調であったことと、また、平成24年度の診療報酬改定がプラスに働くことが判明したことから、この度、法人は「附属滝井病院リニューアル計画」(以下リニューアルと略す)の実行を決定いたしました。

このリニューアルについては、実は何年も前から、他地域への移転(遠い所や近い所)なども含めて慎重に検討されてきましたが、現在の滝井地区でのリニューアルが最適との判断に至りました。

この計画で重要なことは、現在の滝井病院における外来および入院(500床)機能を1日たりともストップすることなく建替えるプランを策定することです。さらに、現在の滝井病院を含むすべての敷地は公道によって縦・横に分断されているということも考慮に入れなければなりません。この2点が大きな課題となりました。

そこで具体的なプランですが、現在大学に属する1～3号館を取り壊し、その跡地に地下1階、地上7階～8階建、延床面積約2万～2万5千平米の新しい病院(仮称：本館)を建築します。ここに外来施設、手術室(13室)、集中治療室、外科系を中心とする病室(200～300床)を配置し、急性期医療の機能を持たせます。また災害拠点病院として屋上にヘリポートも設置する予定です。

比較的新しい南館、北館はそれらを残し有効利用を図ります。その際、南館・北館は200～300床の病室と、

管理棟としても使用する予定です。本館はもとより、南館・北館も改修によって1室当たり4床部屋とし、1床当たり約90平米のゆとりのある病院とする予定です。公道による敷地の分断という問題点は各棟をセミオープンの地下通路で結ぶということで解決します。

リニューアル計画の最終段階では、本館の完成後、南館と北館を大規模改修し、現在のA、B、C棟、E、F棟を取り壊して、その跡地に100m×70mの極めて広い緑豊かなホスピタルガーデン(サッカーの公式グラウンドの広さに相当)を作ります。この中庭は病客のみならず近隣の人々の憩いの場所ともなり、滝井地区の緑化にも貢献でき、さらに災害時の避難場所にもなります。また、この場所は将来の病院の建替えや増築に際して、重要な種地としての利用も考えられます。無論、整備すべき医療機器についても、その時の財務状況にもよりますが、できるだけ高度で最先端のものを整える計画です。また、完成後の新しい滝井病院の使命は地域に密着した急性期医療センターを目指すことです。

今後の日程としては基本計画から基本設計(この段階で皆様のご意見をお聞きします)、さらに実施設計へと進み、平成26年4月には病院本館新築工事に着工して、平成27年末には完成、平成28年4月にオープンし、その後、北館、南館の改修工事などを経て平成29年の秋には新滝井病院がグラウンドオープンとなります。

これが完成しますと、本学は今後、約30年間にわたって大きな建物を建てる必要がなく、その資金を教育、研究、診療および教職員の待遇改善に使用でき、本学は益々充実するものと期待できます。法人はこれらの夢のあるリニューアル計画を借入金なしに完成したいと考えております。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

新学舎情報

枚方新学舎建設工事の進捗報告 外観一部お目見え

枚方新学舎の建設工事は、順調に進んでいます。既に低層棟と中層棟の一部の足場が解体され、明るい茶色のタイル張りの外観が姿を現しました。現在、内装工事の作業を進めています。今後、高層棟の足場も解体され、10月には待ちに待った全体像のお披露目になる予定です。そして、翌年1月に竣工を迎えます。



順調に工事が進む新学舎(手前が低層棟) 8月1日撮影

特 集

2013年
関西医大が
変わる

特集 | 本学の「入試改革」

大学は今、競争的環境の中で、それぞれが特色ある魅力的な学園となるよう変革することが求められ、本学でも教育改革に取り組んでいます。中でも、入試制度においては大改革を行い、平成25年度の入試では「2013年、関西医大が変わる」をテーマに、志願者の増加や優秀な受験生の獲得に向けた魅力ある取り組みを展開しています。今号の特集では“変わる”本学の入試について紹介します。

入試が変わる

平成25年度の入試は、従来の推薦入試(現役生対象)と一般入試に加えて、センター試験利用入試を実施します。皆さんの地元で受験できる大学入試センター試験がそのまま第一次試験となります。本学にお越しいただくのは、第二次試験からとなるため、遠方の方も受験のための時間や交通費などの節約になります。また、センター試験利用入試の入学検定料は、受験生の皆さんのご負担を少しでも軽くするように、一般入試の検定料(6万円)の半額(3万円)にしました。

学費が下がる

平成25年度から学納金を減額します。昨今の厳しい社会情勢を受けて、就学における皆様のご負担の軽減につなげるため、6年間総計で200万円を引き下げます。関西の私立医科系4大学のうち、6年間総計で3,000万円を下回っているのは本学だけです。

◆改定後の本学の学納金

	改定前	改定後	差額
初年度合計	870万円	570万円	300万円減
6年間合計	2,970万円	2,770万円	200万円減

優秀な学生を結集するために

副学長 松田 公志

「2013年関西医大が変わる」をキャッチフレーズに、本学は入試制度を大きく改革することになりました。その内容は、以下の3点です。

- ①センター入試の導入、②東京試験会場の導入、
③学費値下げ

この改革の目的は、これまで以上に優秀な若い学徒を本学学生として結集し、枚方新学舎という素晴らしい環境の下で充実した医学教育を行い、日本の医学医療を支える医師を本学から多数輩出することにあります。優秀な学生を得るためには、やはりより多くの受験生が本学を受験することがぜひとも必要であり、また、いわゆる偏差値の上昇を目指すことも大切です。本学は、入試センターを核として、より受験しやすい、魅力的な医科大学を目指して、さまざまな取り組みをしています。

センター入試の導入により、本学は推薦入試、センター入試、一般入試と、3種類の入学生選抜形態をとることになります。これによって、これまで本学を受験しにくかった受験生にも受験の機会を広げ、より多様な学生が本学に入学することによって、お互いに切磋

琢磨することが期待されます。

東京入試会場は、人口の多い関東地区からの受験生を期待することもあります。それとともに、関西出身で東京の予備校で学習している受験生や、東京の医科大学を受験しに行く学生が東京で本学を受験できる利便性の向上も目指しています。一流私立医科大学としての地位を確固たるものにする上で、東京試験会場は大きな意味を持っていると考えています。

厳しい経済状況の中で、本学理事会は、25年度新入生の入学時学費を300万円、6年全体では200万円の減額を決定しました。もともと私立医科大学の中では比較的学費の低い本学でしたが、この処置によって、29大大学中7番目に学費の低い私立医科大学となります。

これらの入試改革とともに、枚方新学舎の開設による学習環境の充実と学生アメニティーの向上、真の6年一貫医学教育カリキュラムの実施、充実した設備の附属枚方病院でのクリニカルクラークシップなどによって、2013年、本学は大きく飛躍する準備が整ったといえましょう。

特 集

積極展開する入試説明会

6月23日(土)にインテックス大阪で開催された合同入試説明会「夢ナビライブ2012大阪会場」では、集まった総勢15,000名の高校生らによって会場は熱気に包まれていました。このイベントに本学もブース出展し、多数の生徒や保護者にブースにお越しいただきました。このほか近畿圏をはじめ、関東や中国地方で夏から秋にかけて開催される計12回の入試イベントにブース出展します(終了分も含む)。昨年までの入試イベントへの出展は年8回程度でしたので、今年は例年以上に積極的なPR活動を展開しています。



多くの参加者が訪れた本学のブース
 夢ナビライブ2012大阪会場

◆本学が今年出展する入試イベント(一部予定を含む)

開催月日	名称	場所	主催
6月3日(日)	私立医大・医学部相談会2012 IN 名古屋	TKP名古屋ビジネスセンター	大学通信
6月23日(土)	夢ナビライブ2012大阪	インテックス大阪	fromページ
7月14日(土)	夢ナビライブ2012東京	東京ビッグサイト	fromページ
7月27日(金)	私立医科大学合同入試説明会・相談会(東日本ブロック)	獨協医科大学	日本私立医科大学協会
7月29日(日)	私立医科大学合同入試説明会・相談会(近畿・中国ブロック)	大阪医科大学	日本私立医科大学協会
7月31日(火)	私立医科大学進学相談会(広島会場)	広島ガーデンパレス	教育広報社
8月4日(土)	私立医科大学合同入試説明会・相談会(中部ブロック)	金沢医科大学	日本私立医科大学協会
8月9日(木)	私立医科系大学進学相談会(大阪会場)	新大阪ブリックビル	教育広報社
8月16日(木)	私立医科系大学進学相談会(名古屋会場)	ミッドランドホール	教育広報社
9月22日(土)	私立医科大学合同入試説明会・相談会(東日本ブロック)	東邦大学	日本私立医科大学協会
9月29日(土)	全国医歯薬科大学受験説明会(大阪会場)	大阪城ホール・城見ホール	代々木ゼミナール
10月13日(土)	全国医歯薬科大学受験説明会(東京会場)	新宿エルタワー	代々木ゼミナール

本学の2教授が講義ライブ

また「夢ナビライブ」では、大阪会場で医学教育センターの木下洋教授が、また7月14日(土)の東京会場(東京ビッグサイト)で心療内科の福永幹彦教授がそれぞれ、集まった高校生らの前で講義を行いました。これは夢ナビライブの「講義ライブ」という企画で、両教授が本学での学びについて参加者に分かりやすく説明、参加した高校生たちは目を輝かせていました。

高校生らに分かりやすく講義する福永教授



木下教授の講義では本学の学びの魅力がたっぷり紹介されました

オープンキャンパスに392名来場

今年のオープンキャンパスは8月18日(土)に附属枚方病院で開かれ、事前に申込みのあった高校生や保護者392名が参加しました。入試概要説明や受験相談会、在校生による学生生活相談会、病院の施設見学などが行われ、参加した高校生らは真剣な表情で説明を聞いていました。施設見学では、5グループに分かれて手術部、臨床検査部、健康科学センター、ドクターズカー、放射線科(CT/MRI)を訪問、担当の教職員が各部門について解説し、参加者はメモを取るなど、興味津々の表情を浮かべていました。また、総合周産期母子医療センターの見学も行われ、NICU(新生児集中管理室)部門で小児科新生児医療の最先端の施設を見学したほか、本学の研究に関するパネル展示やシミュレーターを使ったBLS(1次救命処置)の体験コーナーも設けられるなど、本学の学びの魅力をたっぷり伝えたオープンキャンパスとなりました。



施設を見学する参加者たち

特 集

平成25年度医学部入試要項

【推薦入試】

募集人員：約10名
 募集区分：特別枠のみ、専願
 願書受付期間：平成24年11月1日(木)～11月15日(木)
 出願要件：高等学校卒業見込みの者で全体および6教科の評定平均値が共に4.0以上
 選抜方法：
 第1次試験：出願書類をもとに書類選考

第2次試験：第1次試験の合格者に実施

- (1)小論文
- (2)適性検査(数理解題、英文問題含む)
- (3)面接(集団・個別)

第1次試験結果通知日：平成24年11月22日(木)
 第2次試験日：平成24年11月25日(日)
 第2次試験場所：本学専門部学舎
 第2次試験合格者発表日：平成24年11月30日(金)

【センター試験利用入試】

募集人員：約15名
 募集区分：一般枠
 願書受付期間：
 平成24年12月10日(月)～平成25年1月18日(金)
 出願要件：
 ①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者
 ②大検および高卒認定試験の合格者
 ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者
 第1次試験日(大学入試センター試験日)：
 平成25年1月19日(土)～1月20日(日)

第1次試験合格者発表日：平成25年2月6日(水)

選抜方法：

第1次試験科目：

- 国語：「国語」(近代以降の文章のみ)
 数学：「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の2科目必須
 理科：「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2科目選択
 外国語：「英語」(リスニング含む)

第2次試験：面接(第1次試験合格者に対して実施)
 第2次試験日：平成25年2月9日(土)
 第2次試験場所：本学専門部学舎
 第2次試験合格者発表日：平成25年2月15日(金)

【一般入試】

募集人員：約85名
 募集区分：一般枠(若干名、特別枠を募集する場合がある)
 願書受付期間：
 平成24年12月10日(月)～平成25年1月17日(木)
 出願要件：
 ①高等学校卒業見込みの者および高等学校を卒業した者
 ②大検および高卒認定試験の合格者
 ③外国における12年の課程を修了した者、その他文部科学大臣が指定した者
 選抜方法：

- (2)外国語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング・ライティング
- (3)理科：「物理Ⅰ・物理Ⅱ」「化学Ⅰ・化学Ⅱ」「生物Ⅰ・生物Ⅱ」の3科目から2科目選択(試験場で問題配布後、選択)。物理Ⅱのうち「原子と原子核」を出題する場合は、選択問題とする

(4)小論文

第1次試験日 平成25年1月26日(土)

第1次試験場所：

- 大阪会場：インテックス大阪
 東京会場：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター

第1次試験合格者発表：平成25年2月5日(火)

第2次試験：面接(第1次試験合格者に対して実施)

第2次試験日：平成25年2月9日(土)

第2次試験場所：本学専門部学舎

第2次試験合格者発表：平成25年2月15日(金)

選抜方法：

第1次試験科目

- (1)数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C(数学Bのうち「統計とコンピュータ」「数値計算とコンピュータ」除く)

※推薦入試・一般入試・センター試験利用入試の詳細は本学が発行する募集要項またはホームページをご参照ください。

平成25年度 大学院入試後期日程

【募集人員】

医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期、後期の合計)
 先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前期、後期の合計)

【願書受付期間】

平成24年11月27日(火)～平成24年12月27日(木)
 (郵送する場合は 受付期間内に必着のこと)

【選抜方法】

外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)
 専攻別授業科目(午後)

【実施期日】

平成25年1月19日(土)

【試験会場】

外国語(英語)：専門部学舎1号館4階「第4実習室」
 専攻別授業科目：当日告知

【合格発表日】

平成25年2月15日(金)

※詳細は募集要項またはホームページをご参照ください。

法人

業務改善コンテストの取組み事例を紹介します

平成24年2～3月に実施された「第1回関西医科大学業務改善コンテスト」(理事長直轄大学(法人)支出削減作業部会主催)の最終発表では、大学関係部門と枚方、滝井、香里の3病院の各部門による事例が発表され、多くの教職員がその取組み内容に刺激を受けました(枚方病院は単独で前年から実施しています)。中でも、上位入賞を果たした事例は洗練されており、本学の発展につながる取組みでした。ここでは、上位3チームの業務改善内容を紹介します。

◆大学関係部門

順位	チーム名	テーマ	目的	成果
1	総務部 人事課 業務見直し おかちゃんズ	課内業務マニュアルの電子化、一本化について	多岐に亘る業務について、担当者が個々に作成しているマニュアルを、同じフォーマットのもと、電子化・一本化し、情報の共有、ひいては課員が常に改善意識を持ちながら各業務にあたるよう、人材育成に用いたい。	業務改善に取り組み、マニュアルを統一化することで「各メンバーの業務を知る」「情報を共有する」「知識が平準化する」ことができ、互いに連携がとれ、業務を理解することが可能となりました。そして、より一層、業務の効率化・平準化が図れました。
2	総務部 庶務課 泥鰌クラブ	規定関連業務に特化した業務改善について	庶務課における業務の中で、その重要性、比重が大きいと考えられる規定関連業務を今一度見直し、より効率化することにより、さらなる業務改善を図りたい。	複数担当制にして業務の共有化を図ったことで処理時間の短縮と精度が向上、さらに適宜の労働力の集中投入で超過勤務時間の削減につながりました。また、マニュアル作成により業務が整理され、加えてイントラネットに掲載している規程の更新については業者折衝により、更新依頼から収載までの期間を短縮することができました。
3	財務部 もったいない・ ウォッチャー	大学及び滝井病院における公共料金等の100%自動引落化によるコスト削減	従来より公共料金等の口座振替へ変更を進めてきたが、残存分は請求書を使用し銀行へ持ち込みデジデポジット(先日付取引お預りサービス)で振込んでいるため、払戻請求書等提出書類の作成、銀行への直接持ち込み等に多くの時間を要し、さらに振込によっては手数料が発生している。そこで4ヶ月間で100%口座振替化を図り、人件費並びに振込手数料の削減を実現したい。	対象を公共料金、福祉医療機構、大阪労働局、私学事業団宛の銀行振込に絞り込み、口座振替対象となる部所に説明文書を送付、口座振替への変更承認を依頼し、承認を得た後、口座振替依頼書を作成し、銀行または業者等に提出しました。結果、業務フローの簡素化が実現し、年間ベース30.6時間の所要時間削減につながることに加え、コストは年間ベースで90,729円以上を減額できる予定です。

◆附属枚方病院

順位	チーム名	テーマ	目的	成果
1	医療安全管理部 寺子屋医療 安全開校	職員のニーズに沿った医療安全研修の取り組み	医療安全管理部は、過去の医療事故事例を参考に職員全体を対象とした医療安全研修を年20回程度開催している。しかし、医療事故は部門ごとにその発生要因や特徴が異なる可能性がある。そこで今回は個々の現場に注目し、各部所で従事している職員の医療安全に対するニーズを吸い上げて部所毎に必要な性の高いテーマについて研修することで、現場の医療安全の質を向上させる。	医療安全研修の内容理解度について1～4の4段階評価では、安全研修の平均が3.5でしたが、寺子屋開校では平均3.7と高い評価で、0.2ポイントアップしました。呼吸器関連インシデント報告件数は寺子屋前の1ヵ月平均は1.1、寺子屋開校後は1件であり、9%ダウンに繋がりました。投薬間違いは寺子屋前の1ヵ月平均が6.4、寺子屋開校後は5件で22%ダウンに繋がりました。職場ニーズを取り入れた研修は、理解度を高めることに加え、積極的な意見交換が行えたほか、呼吸器、薬剤投与間違いのインシデントの減少に繋がりました。
2	病床運営 管理部 患者も満足。 WIN-WIN病床稼働	病床稼働率の向上	急性期医療機関の収益を左右する一つに病床稼働が挙げられる。暗黙知となっている病床運営管理部の病床運営ノウハウを病歴情報課によるデータ分析から形式知とし、病床稼働率の向上を図る。	全病室の稼働状況を月別にイントラネットに公開し、そして「本日の空床情報」を公開したほか、ベッドコントロールの端末にパス進捗状況が見える独自開発ツールを導入したことで、稼働率が大幅に上昇しました。
3	薬剤部 Safe Chemotherapy	注射ラベルへの手書きの追記作業を解消し業務効率の改善を目指す	外来化学療法センターでは薬剤混合調整後に看護師が薬剤師と確認しながら注射ラベルに点滴順序と点滴時間を手書きしているが、患者数増加に伴い記載にかかる時間と手間が増大している。今回、これらの記載内容を予めラベル印字するシステム改善に取り組み、記載作業と確認作業にかかる労力の削減を図る。	ラベル印字により、印字された点滴順序・点滴時間にラインマーカーを引くだけの作業となり、追記作業に費やす時間は大幅に短縮されました。特に処方数の多いレジメンや点滴時間を細かく指示されている薬剤(リツキサン注、アクトムラ注等)では顕著でした。また安全面の向上と労力の軽減を実現したほか、新レジメン登録時においても予め点滴順序、点滴時間の入力を行っているため、手書き追記作業は発生していません。

法 人

順位	チーム名	テーマ	目 的	成 果
3	12S病棟 12S デスカンファ レンスチーム	デスカンファレンスの導入でスタッフのグリーンケアにつなげチーム全体で成長していこう	①スタッフのグリーンケア ②患者さんの死亡退院の事例から引き出された教訓の共有と集積 ③チーム全体の成長、多職種との連携	「自分一人で抱え込んでしまうことが多かったが、他の看護師の意見を聞き、同じように悩んでいたことがわかり、心の負担が軽くなった」「他のスタッフの意見を聞くことで自分一人では見えなかった患者さんの想いや家族背景を知ることができた」「後悔や反省が多くても意見や想いを共有できて良かった」などの感想が上がり、チームのモチベーションの向上につながりました。
3	9N病棟 ライフワーク サポートチーム	患者と考える退院調整～スクリーニングシートの活用・退院調整カンファレンスを通して～	①在院日数の短縮、稼働率の向上②スタッフの退院調整の必要性の意識の向上、取り組みの実際③積極的な退院支援、調整を行い、療養環境の整備による患者満足の上	平成23年の退院支援適応患者は12月までで31名でした。23年度の在院日数は退院支援や介護申請などの勉強会を行った6月より少なくなっています。スタッフ一人ひとりが意識し退院に向けた関わりを行った結果だと感じています。

※附属枚方病院は3チームが3位同等の賞を受賞しました。

◆附属滝井病院

順位	チーム名	テーマ	目 的	成 果
1	臨床工学センター 病棟の果てまで イチテQ	各病棟への出張講習会	各病棟から出るME機器に関する疑問・質問に対する講習会を行うことで、ME機器使用に対する知識を高め、患者さんに安全に使用できるようにする。	機器の修理件数やヒューマンエラーの大幅な減少につながったほか、知識の向上、安全使用やトラブル回避などの効果もみられ、さらに、修理費用の軽減にもつながっています。
2	内科・外科処置室 「止血隊」	止血ガーゼ廃止に向けての取り組み	①採血、静注後の確実な止血②抗凝固剤の内服、血小板減少、品界の静注・点滴による皮膚及び血管の脆弱化などによる止血困難患者への教育③ガーゼコストの削減④止血ガーゼ折の時間・労力削減	「再出血の患者はゼロ」「止血ガーゼの廃止について患者の協力が得られたほか、患者自身が止血帯を購入、作成する姿がみられた」「ガーゼコストやガーゼを折る労力の削減につながった」などの効果につながりました。
3	看護部 フィンガー5	業務を整理して患者さんとの時間を多く持とう	業務改善(5S活動)の年間計画を立案・実施し、働く環境を整える。	5S活動や物品の整理整頓を行った結果、使用物品の管理がスムーズになり業務時間の短縮につながりました。また、申し送りを短縮したことで患者さんのもとへ早く行くことができ、さらに夜勤業務との引継ぎがスムーズになりました。そして、これらの取り組みにより、仕事のミスを減らし無駄の削減につながりました。

◆香里病院

順位	チーム名	テーマ	目 的	成 果
1	内視鏡部 内視鏡チーム	経費削減、患者サービス向上、病院経営に対する認識の向上	「鎮痙剤ミンクリア導入の試み」 ミンクリア使用例では、経口内視鏡検査、経鼻内視鏡検査のいずれにおいても前処置に要する時間の短縮が可能となり、シリンジを使用しないためコスト削減にも寄与する。①注射回数の減少による針刺し事故の防止②前処置として注射を行わないことで患者の苦痛軽減③グルカゴンより安価なためコストの軽減の効果が得られる。	ミンクリア使用例では、経口内視鏡検査、経鼻内視鏡検査のいずれにおいても前処置に要する時間の短縮が可能でした。また、シリンジを使用しないため、観察期間中において3,190円、年間13,000円の経費削減となりました。
2	日本医療事務 センター NICチーム	業務の効率化	「ブロック受付における個人レベルの知識の平準化や業務の効率化を目指す」 開院して1年、個人の業務の格差に気づき、新人の配属や総合案内での業務増をふまえ、接遇面も含めて、スキルを見直すこととした。具体的には、定期的にテストを繰り返し実施(運用事例、院内知識、一般教養他)、患者外出対策、患者持参のコピー札、重要事項の確認忘れ予防など5点。	①患者さん持参物にコピー札をつけたことで、返し忘れがなくなりました。②同意書の取扱いについて、同意書確認ミスが無くなりました。③眼科のクライオ受付票については、15分おきに出力をチェックしており、クライオ出力ミスが0件になりました。④診療時間まで時間が残り、外出する患者さんのファイルをお預かりする際には、保管用のメモ書き用紙をフォーマット化し、書く手間の短縮につながりました。⑤スタッフの平準化に向けて、普段から不安要素を取り出し、定例会のときにテストするようにしたところ、業務ノートを見直す機会になり、業務内容の再認識にもつながっています。
3	血液浄化療法部 チーム透析 エコ隊	減らせハザードBOX	「ハザードBOX 50Lの使用数を減らす」 ・ハザードBOXと一般ごみの分別を徹底する(スタッフに周知徹底)。 ・ハザードBOX1箱1,300円の廃棄処分料がかかっているが、年間163,800円のコスト削減を見込む。	患者さん一人あたりの医療廃棄物処置費用を1日あたり15円減らすことが出来ました。現在は約70名が週3回透析すると、1ヵ月で13,650円、1年で163,800円のコスト削減になります。

※誌面に取り上げた各チームの業務改善内容は「KMUイントラネット(<http://www.tnoc.kmu.ac.jp>)」(学内関係者のみ閲覧可能)でご覧いただけます。トップページの「新着情報・お知らせ」に掲載しています。

法人

寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成24年5月1日から平成24年7月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名（五十音順）を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

なお、募集当初から平成24年7月31日までの寄付金累計額は6億4,051万6千円です。

<個人>

--	--	--	--	--	--



<法人>

--	--	--	--	--

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

2. 募集金額

1口10万円・申込口数1口以上

できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書

・法人の場合：

(1) 特定公益増進法人申込書

(2) 受配者指定寄付金申込書

4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局

〒570-8506

大阪府守口市文園町10番15号

TEL：06-6993-9556(直通) FAX：06-6993-5221

E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

法 人

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
7月2日	定期人事異動辞令交付式	専門部学舎
7月21日	地域医療連携フォーラム	香里病院

日程	行事名	場所
8月4日	健康医療都市ひらかたコンソーシアム設立 協定書調印式、キックオフシンポジウム	枚方市役所、 枚方市市民会館

本学と枚方市が健康医療に関する2連携協定を締結

本学と枚方市が2つの連携協定を結びました。

7月18日(水)には枚方市役所で、大阪歯科大学、摂南大学との3大学による、健康医療分野での協力や地域連携を進める連携協定を締結しました。調印式では、山下敏夫理事長・学長が協定書にサインし、竹内脩市長はじめ、大阪歯科大学の川添亮彬理事長・学長、摂南大学の今井光規学長とがっちり握手。山下理事長・学長は「40万人規模の市で『医歯薬』の学部がそろっているという、めずらしく、且つ活力ある枚方市の活性化のお役に立てるよう、3大学で協力していきたい」と力を込めました。

この協定は、枚方市と市内6大学が連携し、各大学の特徴を活かした連携モデルを構築するために4月に開催された「第13回学園都市ひらかた推進協議会」において確認された取組みの一環で、本学と大阪歯科大学、薬・看護の両学部を持つ摂南大学による「医歯薬」の連携を通じた「健康・医療連携モデル」を構築するのが狙いです。今後は、公開講座の充実や市の健康イベントに教員や学生が積極的に参加するほか、「健康医療都市」を都市ブランドとして掲げる枚方市の地域貢献につながる事業を展開する予定です。

また、枚方市は市民が生き生きと暮らせる「健康医療都市ひらかた」を掲げており、8月4日(土)に関西医科大学と附属枚方病院を含む13の関係機関との協定を締結、大阪府内では初となる健康と医療に関する

「健康医療都市ひらかたコンソーシアム(共同事業体)」を設立しました。

協定書調印式には大学から山下理事長・学長、附属枚方病院から今村洋二病院長、さらに枚方市医師会の青井一雄会長(本学評議員)がそれぞれ出席し、協定書にサインしました。協定にはほかに大阪府枚方保健所、枚方市歯科医師会、枚方市薬剤師会、大阪歯科大学、摂南大学、星ヶ丘厚生年金病院、枚方市公済病院、大阪府立精神医療センター、市立枚方市民病院が参画しています。

今後は市民の健康増進や地域医療のさらなる充実に向けて、枚方市内にある5つの公的病院や医学、歯学、薬学・看護学の3大学など健康と医療に関する団体などが連携して、災害時における医療体制の強化など様々な課題に取り組みます。

また、設立を記念する「健康医療都市ひらかたコンソーシアムキックオフシンポジウム」が同日午後0時30分から枚方市市民会館 大ホールで開催され、山下理事長・学長と今村病院長がそれぞれ出席。「災害医療対策」をテーマにしたパネルディスカッションでは今村病院長がパネラーとして登場し、災害医療に関する附属枚方病院の体制などについて説明しました。



大学連携の協定書にサインした山下理事長・学長(左から2人目)と竹内市長(同3人目)ら=7月18日

健康医療都市ひらかた」を掲げており、8月4日(土)に関西医科大学と附属枚方病院を含む13の関係機関との協定を締結、大阪府内では初となる健康と医療に関する



シンポジウムに出席した山下理事長・学長(左から6人目)と今村病院長(同9人目)=8月4日

第4回地域医療連携フォーラム開催

「第4回地域医療連携フォーラム」が7月21日(土)午後3時から、香里病院8階会議室で開かれ、地域の医療関係者35名が参加しました。香里病院地域医療連携部長で内科学第二講座の高橋延行准教授が司会を務め、高橋伯夫臨床検査医学講座教授の挨拶の後、本学の2教員の学術講演会が行われました。講演は宮崎浩彰医療安全管理センター副センター長が座長を務めました。

高橋延行内科学第二講座准教授(香里病院内科)が「慢性腎臓病(CKD)へのアプローチ～透析予防のための病診連携～」と題して講演し、CKD病診連携の意義や問題点、さらに症例について説明したほか、CKD予防に向けて地域で連携することの必要性について言及しました。また、木全貴久小児科学講座助教(附属枚方病院小児科)の講演では「見逃してはいけない小児の尿路感染症」をテーマに、子どもの尿路感染症(UTI)の診断が困難なことや症状の特徴、治療などについて解説し、正確な評価や適切な指導の重要性を強調しました。



地域の医療関係者が集まった地域医療連携フォーラム(写真は高橋准教授の講演の様子)

大 学

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
5月1日	病態分子イメージングセンターAnnual meeting	附属枚方病院
5月15日	解剖体追悼法要	建仁寺
6月2日	白菊会総会	附属滝井病院
6月9日	新任教員教育ワークショップ	附属滝井病院

日程	行事名	場所
7月14日	医学教育ワークショップ	附属滝井病院・専門部学舎
7月18日	「学園都市ひらかた連携モデル」に基づく連携協力に関する協定調停式	枚方市役所
7月28日	健康沿線トークカフェ	附属枚方病院

解剖体追悼法要と遺骨返還式を挙行

5月15日(火)午前10時から、京都市東山区の臨濟宗大本山建仁寺において「第82回解剖体追悼法要」が営まれました。この日は雨天の中、医学教育発展のために献体いただいた故人のご遺族、白菊会会員のほか、本学からは山下敏夫理事長・学長をはじめとする教職員や学生ら約360名が参列しました。山下理事長・学長が追悼の辞を述べ、僧侶による読経が行われた後、参列者が焼香し、献体された故人に感謝を捧げ、ご冥福をお祈りしました。

また、法要の後の午前11時からは同寺で遺骨返還式が執り行われ、山下理事長・学長が感謝の言葉を述べ、ご遺骨を返還するとともに、文部科学大臣からの感謝状の贈呈が行われました。



追悼の辞を述べる山下理事長・学長



第31回白菊会総会を開催

6月2日(土)午後1時から、附属滝井病院本館6階大講堂において「第31回白菊会総会」が開催されました。白菊会会員約210名が出席し、本学からは山下敏夫理事長・学長はじめ、解剖学、病理学の両講座関係の教員、専門部教務部長、学生部長が出席しました。総会は、黙祷の後、コールクライスの学生が「白菊会の歌」を斉唱し、続いて山下理事長・学長、平野利夫白菊会会長がそれぞれ挨拶しました。さらに、役員紹介の後、議事に入り、前年度の白菊会行事、会計報告、監査報告が行われました。また今年、卒寿を迎えられ、当日総会にご出席された3名の会員に平野会長より記念品が贈られ、最後は出席者全員で記念撮影を行いました。

卒寿を迎えられた会員に平野会長から記念品が贈られました

新任教員教育ワークショップ開催

6月9日(土)午前9時から、附属滝井病院南館2階臨床講堂において新任教員教育ワークショップが開催され、山下敏夫理事長・学長、友田幸一副学長・専門部教務部長、タスクフォース6名および新任教員62名が参加しました。

個別テーマの「本学のカリキュラムについて」「本学のチュートリアル教育」「本学のOSCE、Advanced OSCE」「本学のクリニカル・クラークシップ」の講演の後、福永幹彦チーフタスクフォースの司会のもと、友田副学長・専門部教務部長、タスクフォース5名によるパネルディスカッションが行われ、本学の医学教育について活発な意見交換が行われました。終了後、参加者には修了証が授与されました。



活発な意見交換を繰り広げたワークショップ

大 学

第30回医学教育ワークショップ開催

第30回医学教育ワークショップが7月14日(土)午前9時から附属滝井病院南館2階臨床講堂を主会場に実施され、山下敏夫理事長・学長をはじめ教職員67名および学生11名が参加しました。テーマは「2013 関西医大が変わる—6年一貫統一カリキュラム—」で、平成25年度からの枚方キャンパスへの学舎統合に伴い、実習施設や研究施設等の配置を調整し、教養域、基礎社会域、臨床域のバランスが取れた6年一貫教育のカリキュラム構築を推進することを目的に開催しました。

午前中、友田幸一副学長・専門部教務部長が「6年一貫統合新カリキュラム案、5・6学年新カリキュラム案クリニック・クラークシップ」、藤澤順一専門部教務部長補佐が「1・2・3学年前半新カリキュラム案」、木下洋医学教育センター長が「3学年後半～4学年新カリキュラム案チュートリアル、CBT、OSCE」と、それぞれ題した講演がありました。午後からは5グループに分かれてグループ討論と全体発表が行われ、参加した教員、看護師、研修医や学生が現状の教育における問題点・課題を掘り下げたほか「6年一貫カリキュラムをどのように行っていくことが望ましいか」といった議論を展開しました。



積極的な意見交換が行われたグループ討論

「健康医療都市」テーマ
に開催された健康沿線
トークカフェ



第4回健康沿線トークカフェ開催

7月28日(土)午後2時30分から、附属枚方病院レストラン「のぞみ」において、第4回健康沿線トークカフェ「健康医療都市」(主催：産学連携知的財産統括室)を開催し、本学教職員ほか他大学、企業、介護およびマスコミ関係者など18名が参加しました。藤澤順一産学連携知的財産統括室長による挨拶の後、同室の三島健顧問の司会進行により、大阪工業大学情報科学部の佐野睦夫教授、本学公衆衛生学講座の三宅真理講師による「認知症」への取り組みについて2席の講演がありました。

また今回、枚方市地域振興部の宮本勝裕部長ほか枚方市役所から2名の出席があり、今年、都市ブランドとして立ち上げた「健康医療都市ひらかた コンソーシアム創設の概要」の説明がありました。いずれにおいても活発な意見交換が行われ、今後を展望させる議論となりました。

平成23年度厚生労働科学研究費補助金(分担者)一覧(代表者管理分)

(単位：円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患克服 研究事業	微生物学	竹之内徳博	准教授	HTLV-1関連脊髄症(HAM)の新規医薬品開発に関する研究	聖マリアンナ医科大学 准教授 山野 嘉久	1,000,000	0
	泌尿器科学	松田 公志	教授	褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部長 成瀬 光栄	0	0
医療技術実用化 総合研究事業 (臨床研究推進 研究事業)	外科学	権 雅憲	教授	大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験(臨床第Ⅲ相試験)	九州大学 准教授 掛地 吉弘	200,000	0
医療技術実用化 総合研究事業	脳神経外科学	浅井 昭雄	教授	初発膠芽腫に対する新規放射線化学療法による有効治療法確立のための臨床研究	大阪医科大学 准教授 宮武 伸一	0	0
肝炎等克服緊急 対策研究事業	外科学	海堀 昌樹	講師	ウイルス性肝疾患患者の食事・運動療法とアウトカム評価に関する研究	岐阜大学 教授 森脇 久隆	2,000,000	0
がん臨床研究事業	産科学・ 婦人科学	神崎 秀陽	教授	日本における子宮頸癌予防HPVワクチンの医療経済的評価のための大規模臨床研究	大阪大学 准教授 榎本 隆之	500,000	0
	外科学	柳本 泰明	助教	切除不能局所進行腺がんに対する標準的 化学放射線療法の確立に関する研究	杏林大学 教授 古瀬 純司	0	0
循環器疾患・糖尿 病等生活習慣病対 策総合研究事業	健康科学	木村 稔	教授	虚血性心疾患の疾病管理プログラムとしての外来型心臓リハビリテーションの効果と普及方策に関する研究	国立循環器病センター 生理機能検査部長 後藤 葉一	450,000	0
	健康科学	木村 稔	教授	多様なニーズに対応するための新たな保健指導方法の開発に関する研究	国立保健医療科学院 主任研究官 藤井 仁	0	0

※上記の研究課題は研究代表者が他機関所属であり、本学研究分担者への補助金配分がないものです。

本誌5月号(Vol.17)24ページ掲載の「平成23年度研究助成金受贈者(採択)一覧」の記事の中で「財団法人 三井生命厚生事業団 第44回(平成23年度)「医学研究助成」を受贈した宮坂陽子講師の講座名が「内科学第三」となっておりましたが、正しくは「内科学第二」の誤りでした。お詫び申し上げます。ここに訂正させていただきます。

学生のページ

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
6月26日	教学懇談会	専門部学舎
7月9日	「国外臨床実習の成果」報告会	専門部学舎
7月28日～8月17日	第64回西日本医科学生総合体育大会	岡山県総合グラウンド他



体験談を発表する学生

海外実習の体験談を報告 「国外臨床実習の成果」報告会を開催

「国外臨床実習の成果」報告会が7月9日(月)午後5時30分から専門部学舎1号館第1講堂で開かれ、アメリカ、マレーシア、ドイツ、カナダの各国で実習した6学年9名がそれぞれ体験談を報告しました。

報告会には来年度以降に国外臨床実習を希望している学生らが参加しました。友田幸一副学長・専門部教務部長の開会挨拶の後、アメリカのバーモント大学で実習した学生2名をはじめ、コロンビア大学1名、マレーシアの国立循環器病センター2名、ドイツのレーバークーゼン総合病院2名、カナダのトロント小児病院2名の順にプレゼンテーションが行われ、学生たちは実習内容や現地での生活などについて、流暢な英語で発表しました。

学生と教員との懇談会開催

6月26日(火)午後6時から専門部学舎1号館5階の大会議室において、本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が開催されました。出席者は、学生は各学年のクラス代表、教務委員、学館運営委員等24名、卒業生1名、教員は山下敏夫理事長・学長はじめ、常務理事、副学長、専門部・教養部両教務部長、専門部・教養部両学生部長、学医、図書館長、各学年のクラスア

ドバイザー、各附属病院長、医学教育センター教員の20名、教養部、専門部の事務職員8名の合計52名でした。懇談会は、常務理事がスライドを用いて枚方新学舎に関して説明した後、軽食をとりながら、各学年の大学に対する要望事項などが挙げられ、それに対して教員が回答する形式で、終始和やかに進められました。

藤井記念医学国際交流基金に留学生6名採択

財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会からのご寄付による「平成24年度藤井記念医学国際交流基金」に6名の留学生が採択されました。区分は外国人留学生援助が3名、外国人研究者招聘が1名で、それぞれ120万円が支給されます。採択者は右記の通りです。

本学学園祭「霜月祭」のお知らせ

平成24年度の学園祭「霜月祭」は11月2日(金)～4日(日)に牧野キャンパスで開催されます。このうち、3、4の両日は一般の方にもご来場いただけます。当日はクラブ活動の紹介や芸能人によるステージイベント、音楽ライブ演奏、ダンス、ビンゴ大会など、今年も盛りだくさんの企画が予定され、盛り上がること間違いありません。また、毎年人気を集めている各種模擬店も出展されます。皆さん、ぜひ足を運んでください。

病院

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
5月16日	北河内緩和ケア講演会	附属枚方病院
5月25日	春季消防訓練	附属枚方病院
5月30日	院内ミニコンサート	附属枚方病院
6月5日	刺股・護身術講習会	附属枚方病院
6月6日	自衛消防結団式	附属滝井病院
6月12日、7月19日	医療安全講演会	附属枚方病院
6月16日	肝臓病教室	附属滝井病院

日程	行事名	場所
6月18日	感染防止対策地域連携共同カンファレンス	附属枚方病院
6月21日	北河内医療安全フォーラム	附属枚方病院
7月7日	七夕コンサート	附属滝井病院
7月7日	たなばたコンサート	香里病院
7月18日	消防訓練	附属滝井病院
7月21日	サマーコンサート	附属枚方病院
7月30日	感染対策講演会	附属滝井病院

附属枚方病院が高度救命救急センターに認定

附属枚方病院が5月17日に「高度救命救急センター」に認定され、附属滝井病院が救命救急センターに変更となりました。高度救命救急センターとは、従来の3次救命救急センターの診療機能に加え、広範囲熱傷や急性重症中毒など特殊な疾患の患者さんに対応できる高度な救急医療を提供する施設のことです。現在、全国に救命救急センターは245施設があり、その中で高度救命救急センターの指定を受けているのは27施設です。なお、附属滝井病院は平成5年3月26日に西日本初の高度救命救急センターに認定されて以来、これまで地域の救急医療に貢献し今回、「高度」の名称はなくなりましたが、今後もこれまでとは変わらない診療機能を継続します。

病 院

附属枚方病院

淀川キリスト教病院 池永部長を招聘 緩和ケアにおける地域連携について講演

池永部長のご講演を熱心に聴講する参加者たち



5月16日(水)17時30分から13階講堂において、緩和ケアチーム主催の「緩和ケアにおける地域連携」と題したテーマで講演会が開催されました。淀川キリスト教病院の池永昌之ホスピス部長を講師に迎え、予後予測の重要性など、緩和医療における問題点と課題について分かりやすく説明いただきました。院内64名、院外からも15名の参加がありましたが、参加された皆さんも熱心に耳を傾けていました。

春季消防訓練を実施

■火災の際の重要事項

- ・周囲に大声で火災発生を知らせるとともに最寄の火災報知機のボタンを押す。
- ・人命第一、避難誘導にあたる。
- ・初期消火を行う(最寄の消火器、消火器で無理な場合は屋内消火栓)。
- ・枚方病院の建物は、火災が発生した場合、防火戸が閉まり、防火区画により延焼を防ぐ構造となっています。火元と反対側に水平方向または避難階段の防火戸を2枚通り抜ければ安全な区域となりますので、慌てずにゆっくりと避難してください。

5月25日(金)午後3時30分から、春季の消防訓練が実施されました。開院から延べ14回目の訓練となりますが、今回は6N病棟615室での出火を想定した枚方消防署の立会いによる検証訓練として実施され、訓練終了後には消防署からの講評をいただきました。講評では、地区隊長となった病棟師長をはじめ参加者の行動について、お褒めの言葉をいただきました。また、地下ドライエアにおいて、実際の廊下に設置されている屋内消火栓を使用した放水訓練も行われ、参加した皆さんも真剣に取り組んでいました。



重症患者を救出する訓練の様子

枚方警察署員による「刺股・護身術講習会」開催

刺股の使い方の指導などが行われた講習会



6月5日(火)に附属枚方病院13階合同カンファレンスにおいて、大阪府枚方警察署の中村守柔道師範を講師に招き「刺股(さすまた)・護身術講習会」を開催しました。病院内で発生する暴力行為への適切な対応を目的に毎年開催しており、職員のみならず、委託業者の方々を含めた52名が参加しました。実際に刺股を用いて、さらに護身術の実技講習を受けるなど、参加者は万一の事態に備えて真剣に取り組んでいました。

サマーコンサート開催

7月21日(土)午後2時30分から2階ホールにおいて、ボランティア委員会の主催による院内サマーコンサートが開催されました。昨年と同様、本学医学生との混声合唱団「コールクライス」によるコーラスで、約250名の患者さんに楽しいひとときを過ごしていただきました。また、ボランティアで参加した看護部のスタッフも浴衣姿で彩りを添えました。



合唱を楽しむ参加者たち

病 院

附属滝井病院

寄 稿

女性泌尿器外来について

附属滝井病院腎泌尿器外科 講師 大口 尚基



1999年9月に関西医科大学附属病院(現附属滝井病院)で開設された尿失禁外来は2003年9月から女性泌尿器外来と改名され、その後2006年1月から2012年3月まで附属枚方病院にて、2012年4月から附属滝井病院にて行っています。開設当時は外

来名の通り女性の尿失禁だけを扱っていた外来でしたが、女性泌尿器科学の発展に伴い扱う疾患も尿失禁だけでなく骨盤臓器脱(膀胱瘤、子宮脱、直腸瘤、小腸瘤、膈断端脱など)、過活動膀胱、尿道憩室、間質性膀胱炎などQOLを損なう女性骨盤底疾患を広く扱う外来になってきました。

とりわけ本邦に2005年にメッシュ手術が導入された骨盤臓器脱の治療は大きな変換期を迎え増加の一途をたどっています。骨盤臓器脱は女性骨盤内にある膀胱、子宮、膈、直腸、小腸などの臓器が加齢や出産、骨盤内手術(子宮摘除)などにより骨盤内の支持組織が弛緩し骨盤臓器が下がり、前後膈壁が膈口より飛び出します。また病状の進行により尿失禁、骨盤下垂感や股間に何かはさまったような不快感、増悪すると排尿困難になり、両側水腎症を呈し腎機能低下をきたす場合もあります。手術は経膈的にメッシュ(ポリプロ

ピレン)を留置し弛緩した骨盤底を補強します。4~6日の短期入院で施行できます。従来の手術より再発率は非常に少ないと言われています。

また尿失禁は健康成人女性の4人に1人、40~59歳の女性では約半数の人が悩んでいると言われています。尿失禁で生命に危険が及ぶわけではありませんが、不安で外出や人に会うのが憂鬱になり、QOLを著しく低下させることがわかっています。加齢によるもののイメージが強いですが、尿失禁は多くは骨盤底を支える筋肉が加齢や出産、肥満、骨盤内手術(子宮摘出など)などにより弛緩することにより起こります。治療は骨盤底筋体操や手術で、腹圧性尿失禁は経膈的に人工のテープ(ポリプロピレン)を中部尿道にゆるく設置する手術で、短時間(30分程度)で施行でき1~2日間の短期入院で可能です。成功率は80~90%と言われています。当院でも今までメッシュ手術は尿失禁、骨盤臓器脱の手術は約400例の症例を施行してきました。

外来ではまず十分な問診を行い、台上診にて臓器脱や尿失禁の有無を確認します。その後尿流動態検査を行い、治療方針を決定します。

今後は女性泌尿器学をさらに啓発し、少しでも女性骨盤底疾患で困っている人々のQOLを改善していければと考えています。

懸命に取り組む職員たち



安全・安心の取り組み 消防訓練を実施

7月18日(水)午後3時30分から「消防訓練」を実施しました。今回の訓練は、南館4階の4S病棟の湯沸し室から出火したという想定で、自衛消防隊の看護師等が消火器や屋内消火栓を用いて消火活動を行ない、また職員による模擬患者の避難誘導にあたりました。参加した職員は、猛暑の中、汗だくになりながらも、臨場感に満ちあふれる雰囲気の中で懸命に訓練に取り組みました。

初期消火班は、職員同士見事な連携により消火にあたり、避難誘導班も、避難の際に患者役に積極的に声がけをする等、日頃の成果を遺憾なく発揮しました。訓練参加者からは「事前に行動をイメージしていたが、実際やってみると思うように身体が動かない。また機会があれば是非訓練に参加したい」という声も聞かれました。訓練というかけがえのない経験を積むことにより、万一の場合、その真価が発揮されるものと思われま

自衛消防隊研修大会出場に向けて結団式を挙

9月11日(火)に守口市門真市消防組合で開催予定の「第54回自衛消防隊研修大会」(主催:守口門真防火協会)の屋内消火栓の部に、男性看護師4名が出場することとなりました。それに伴い、6月6日(水)午後2時から、病院長室で結団式が挙行されました。出場選手が紹介された後、長尾和哉看護師から「関西医大職員としての誇りを胸に一生懸命安全に楽しく訓練を重ねる」旨の力強い宣誓がなされました。岩坂壽二病院長から激励の言葉を受けた後、本学のロゴが入ったヘルメットやTシャツが貸与され、結団式の後にはTシャツ姿に着替えた出場選手が早速、心新たに訓練に臨み、心地よい汗をかきました。



大会に出場する男性看護師の皆さん

病 院

肝臓病教室を開催しました

6月16日(土)午前10時30分から「肝がんを負けないために」をテーマに第14回肝臓病教室が、附属滝井病院南館7階会議室で開催されました。消化器肝臓内科の井口亮助教が「肝がんの内科的治療」、看護部の寺口めぐみ副師長が「看護部からのサポート～入院までの準備 お薬、検査、日常生活～」、医事課の宮田美好係長が「医事課からのサポート～上手に使おう高額療養費制度と肝炎患者支援手帳～」とそれぞれ題して講演しました。恒例の健康運動指導士によるストレッチ体操も好評でした。参加者は34名で、講師のわかりやすい説明に熱心に聞き入ったほか活発な質疑応答が繰り返され、充実した内容となりました。

肝臓病センターでは定期的に市民向け肝臓病教室や市民公開講座、医療従事者向けセミナーを開催しています。一人でも多くの方に参加して頂き、少しでも理解を深めて頂きたいと考えています。



肝がんに対する理解を深めた肝臓病教室

滝井病院ではトロンボーンアンサンブルで盛り上げました



七夕コンサートで楽しいひととき

附属滝井病院では7月7日(土)午後2時から約1時間にわたり、本館6階臨床講堂で七夕コンサートを開催しました。大阪工業大学文化会「ウインドアンサンブル ボンバーオール」の6名の皆様にトロンボーンアンサンブルを披露していただき、美空ひばりのメドレーやボレロなど、おなじみの名曲が奏でられました。また、イントロクイズやカラオケもあり、163名の来場客とともに夏の楽しいひとときを過ごせました。

香里病院

渡辺師長が大阪府看護事業功労者表彰受賞

「看護の日」の記念行事の一環として5月12日(土)に大阪府看護協会ナーシングアート大阪において「平成24年度大阪府看護事業功労者表彰式」が開催され、香里病院医療安全管理部の渡辺京子師長が永年の看護事業への貢献が認められ、大阪府から表彰されました。

推薦の基準は、大阪府下において20年以上看護職員として勤務し、業績が特に優秀で、他の模範であると認められる等となっています。授与式の様子は大阪府病院協会ニュースの5月号にも掲載されました。



看護事業功労者表彰を受賞した渡辺師長

美しい音色が響く会場



「たなばたコンサート」を開催

7月7日(土)午後2時30分から香里病院2階エントランスホールで「たなばたコンサート」が開催されました。当日は大阪聖母女学院中学校高等学校の先生方がバイオリン、キーボード、クラリネット、フルートを演奏をされました。

演奏曲目は「星に願いを」「カントリーロード」「涙そうそう」などでした。聴衆は入院中の方々を中心に約110名で、ボランティアの看護師さんは浴衣姿で参加しました。会場には患者さんからのたくさんの願い事が吊り下げられた「笹」も設置され、つかの間の清涼感を満喫されていました。

天満橋総合
クリニック

天満橋総合クリニックでの受診について

天満橋総合クリニックでは、経営統合を機に、外来診療体制の見直しを進めています。大学附属病院の関連各科と連携して、専門外来を充実させ、予防医療や産業医療関連の外来を新設します。クリニックから大学附属病院への紹介を容易にし、大学附属病院からの逆紹介も受け入れる環境整備を進めています。大学の関連各科と意見調整を行ったうえで、今年10月より、可能などころからスタートできるように作業を進めてい

ます。

総合健診センターでは、大学附属病院の受診者向けの人間ドックや健診コースを設定する作業をしています。また、大学職員や同窓生を対象とした人間ドックの優待制度を発足させます。私立学校教職員共済の制度を利用すれば、質の高い人間ドックを、かなり安い費用で受けることが可能となります。制度の具体的内容が確定すれば、再度ご案内いたしますのでご期待ください。

附属看護専門学校(特集)

附属看護専門学校の学びを紹介

附属看護専門学校では他の大学や専門学校にはない特徴的な学びが繰り広げられ、学生たちは看護師の資格取得に向けて日々学んでいます。学舎は大阪市旭区にあります。平成25年4月に関西医科大学が枚方新学舎に移設した後、一定の準備期間を経て、現在、医学部の1学年が学んでいる関西医科大学牧野学舎に移転することが既に決まっております。これまで以上に充実した環境での学びが実現します。

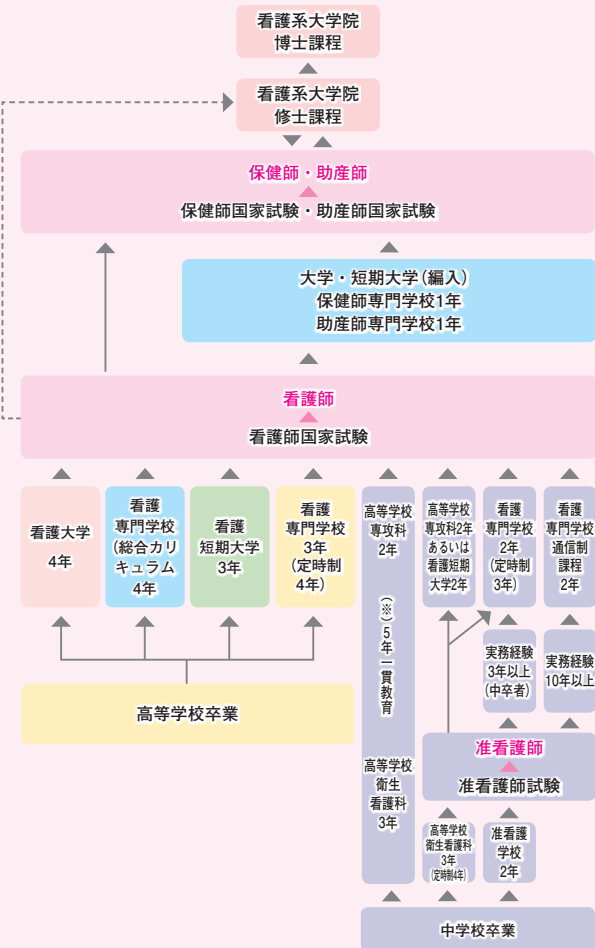


牧野学舎の外観

「看護師」資格が取得可能

看護職とは「保健師」「助産師」「看護師」「准看護師」の資格を持った人のことをいいます。本校は看護師を目指す学生が学ぶ場で、看護師免許は看護師国家試験に合格することにより、厚生労働大臣から交付されます。看護師国家試験の受験資格には様々なコースがあります(下表参照)。この中で本校は3年制の「看護専門学校」に該当し、卒業前に「看護師国家試験」を受験、合格すると晴れて看護師になることができます。

この看護師の資格取得に向けて、本校では看護の専門知識や技術を習得しやすい環境を整えるとともに、行事も含めた多彩なカリキュラムを用意しており、学生たちは各々の資質に磨きをかけて専門職である看護師になるための優れた実践力を身につけています。



学びの特徴

本校の特徴の1つに医科大学附属の専門学校であることが挙げられます。最先端の医療現場である大学附属病院において質の高い実習が行われているほか、看護系大学や他の大学附属の専門学校と比較して実習時間が長いことも大きな特徴です。また例年、卒業生のほぼ全員が実習で慣れ親しんだ関西医科大学の附属病院に就職しているため、切磋琢磨した仲間とともに働くことができることに加えて、職場環境に馴染みやすいというメリットもあります。さらに、選考によって3年間の授業料・実験実習料相当額を貸与する「関西医科大学看護学生奨学金制度」もあり、多くの学生が利用しています。卒業後は文部科学大臣告示により専門士(医療専門課程)の称号が授与されるほか、看護師国家試験受験資格、保健師学校・助産師学校受験資格、大学に編入学する受験資格がいずれも取得できます。

また、関西医科大学附属病院では様々な支援体制が整っています。看護専門職業人として活躍するための能力開発を生涯にわたって支援することを目的とした「卒後臨床研修センター看護実践支援部門」では、新規学卒入職者を中心とする看護職員に対して臨床看護技術の向上を目指した研修を実施しているほか、能力向上につながる多数の研修プログラムが用意されています。さらに、出産などで現場から離れた看護師の復職支援体制も充実しているため、皆さんのライフステージに合わせて働くことができます。



実習の様子

キャリアアップへの道

本校卒業後に養成所や大学における1年間の学びを経て「保健師」や「助産師」の資格を取るOB・OG、通信制大学で学位の取得や外国の看護師資格を取得する先輩もたくさんいます。さらに、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する「認定看護師」や、各疾患に対する卓越した看護実践能力を有する「専門看護師」の資格取得も可能です。いずれも簡単に取れる資格ではありませんが、働きながらキャリアアップが図れます。

附属看護専門学校(特集)

教務部長からのメッセージ

附属看護専門学校 教務部長 牛嶋 百合子

一般的に看護学校はハードというイメージがあり、卒業生も学生時代には戻りたくないと感じるほどカリキュラムの内容は濃く精神的に厳しいようです。その理由として、職業教育において専門的な知識や技術の習得はもとより、医療の現場で実習をすることの精神的緊張と不安、学生であっても医療者の卵として求められる高いハードルに困惑すること、そして正解のない問題を解くような体験を重ねることなどが考えられます。

学校では、入学時より援助の基本を「安全・安楽に、自立を促し個性を重視する」と学びます。そして、個性とは「その人らしく生活するために必要な援助」のことです。しかし、学生が受け持つ患者さんに対して「個性のある看護」に辿り着くのは容易なことではありません。なぜなら、曖昧な知識を確実なものにするプロセス、一般論から応用に至るプロセスにおいて、その根拠付けやアセスメントする力がまだ備わって

ないからです。

個室で自分中心の生活をしてきたゆとり世代の新生入生が、立場を変換し、相手を中心とした思考過程を身に付けるには、強い意思と看護師になる自覚、加えて責任感と多くの支援が必要です。その支援の1つが、3年間で1,035時間に及ぶ実習指導での関わりです。学生は、患者さんと家族の不安や苦悩と向き合う先輩看護師の傍らでその姿を見ながら、看護師になるためのハードルを跳び続けます。多くの先輩から、跳ぶ準備、跳ぶ勇氣、跳び方、着地方法等を学びながら、泣き笑いの日々の中で成長していきます。

例年、卒業生の95%以上が附属病院に就職するのは、そのような実習での深い関わりがあるからに違いありません。「慈仁心鏡」の精神のもと、看護師に「なりたい私」から「なる私」への3年間で、ともに歩み支える教務でありたいと思っています。

在学生コメント

平成22年度入学生

入学して感じたことは、授業の雰囲気がとても良いということです。ただ聞くだけでなく、時にはクラスメートと意見交換しながら進められるので全員で参加できます。さまざまな考えに触れることができるため学ぶことが多く、日々少しずつですが、看護師の職業というものが見えてきていると感じています。相手がいる職業ですから考え悩むこともあると思いますが、学ぶ環境が整っているこの学校でなら自分の理想とする看護師像に近づいていけると思います。

平成25年度入学試験日程・実施要項が決定

附属看護専門学校の平成25年度入学試験実施日及び選抜方法が、次のとおり決定しました。

◆看護学科(3年課程)

【推薦入学試験】

- 募集人員40名
指定校制 1校約2名
 - 試験内容
 - ①学科試験・国語総合(漢文、古文除く)
・小論文
 - ②面接試験(個人)
 - 入学願書受付期間
平成24年11月1日(木)～11月7日(水)
 - 入学試験日
学科・面接：11月17日(土)
 - 合格発表
平成24年11月24日(土)午前9時～午後1時まで
- 【一般入学試験】
- 〔前期試験〕
- 募集人員30名
 - 試験内容
 - ①学科試験・国語総合(漢文、古文除く)、現代文
・英語Ⅰ、Ⅱ
・数学Ⅰ
 - ②面接試験(個人)

- 入学志願書受付期間
平成24年12月3日(月)～12月21日(金)
- 入学試験日
学科：平成25年1月10日(木)
面接：平成25年1月11日(金)
- 合格発表
平成25年1月19日(土)午前9時～午後1時まで
〔後期試験〕
- 募集人員10名
- 試験内容
 - ①学科試験・国語総合(漢文、古文除く)、現代文
・英語Ⅰ、Ⅱ
 - ②面接試験(個人)
- 入学志願書受付期間
平成25年1月28日(月)～2月8日(金)
- 入学試験日
学科・面接：平成25年2月19日(火)
- 合格発表
平成25年3月1日(金)午前9時～午後5時まで
※詳細は募集要項をご参照ください。
ホームページ <http://www.kmu.ac.jp/nurscoll/>

オープンキャンパス開催

オープンキャンパスが7月27日(金)、31日(火)と8月7日(火)の3日間開催され、高校3年生をはじめ、同1、2年生や社会人、保護者らが来場しました。3日間の参加者は計243名で、このうち95名が病院見学に参加しました。3日間とも午前中に高殿学舎で学校生活や入試に関する説明、校舎内の見学などが行われ、午後からは附属枚方病院の施設見学が実施されました。

校舎内の見学では、在校生が赤ちゃん人形を使った沐浴や注射の方法を実演を交えて説明するなど、参加者が本校での学びについて具体的にイメージできるような内容が盛り込まれていました。また、相談ブースが設けられ、参加者が学生生活や入試について積極的に質問していました。



実習内容について説明する在校生

附属看護専門学校

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
5月11日	戴帽式	高殿学舎
5月15日	防犯訓練講習会	高殿学舎

日程	行事名	場所
7月27日、31日、 8月7日	オープンキャンパス	高殿学舎・ 附属枚方病院

看護師への自覚と責任を感じながら… 附属看護専門学校 戴帽式

暗闇の講堂でローソクの明かりが灯る中、執り行われた戴帽式



本校では毎年ナイチンゲール生誕の5月12日前後に戴帽式を挙行しています。今年は、5月11日(金)午前10時から、附属看護専門学校講堂において、岩坂壽二、澤田敏両常務理事、並びに附属枚方病院の今村洋二病院長、大学や臨床、在宅施設から多数の来賓を迎え執り行われました。

戴帽式は、本格的な専門分野の学習と臨地実習が始

まる2年生に対して、看護師を目指すものとしての自覚と責任の重さを再認識することを目的として行います。式典では、暗闇の講堂にナイチンゲール像のローソクだけが灯り、静かなピアノの演奏のなかで、32期生80名一人ひとりの名前が呼ばれました。学生は、教員から純白のナースキャップを被せてもらいローソクの灯をいただき、順番にアーチ状に並び、全員が並び終えたら、「われはここに集いたる人々の前で厳かに神に誓わん…」とナイチンゲール誓詞を朗読しました。そして、誓いを終えた戴帽生は、来賓の方々や保護者と後輩が見守る中キャンドルを手にくっくりと進みました。

ナースキャップの廃止とともに戴帽式を廃止している学校もありますが、本校は継続する予定です。この式典は戴帽する2年生はもとより、看護師の先輩方は懐かしい思いを抱き、後輩は羨望の眼差しで、そして保護者の方々にはわが子の成長を祈りながら、それぞれに掛け替えの無い時間となっているようです。

防犯訓練講習会を実施

5月15日(火)午後2時40分から、附属看護専門学校講堂で1学年82名を対象にした「ちかん撃退法等防犯訓練講習会」が、大阪府警本部と旭警察署の協力を得て開催されました。

大阪府、および旭区内の犯罪発生状況についての説明後、ちかんやひったくりの対策に関する実演を交えた講話があり、講師は「日ごろから防犯に対する警戒心を持ち続けることが大切です」と強調したほか、鍵の施錠の徹底や外出時の注意点などを分かりやすく解説しました。さらに、ちかん撃退法の指導も行われ、学生が2人1組になって、簡単に使える護身術のレクチャーを受けました。



警察官とマスコットキャラクターによって分かりやすく解説された講習会

学校祭のお知らせ 今年のテーマは「輪を広げよう看祭～今、心をひとつに～」

昨年の学校祭の様子



9月28日(金)と9月29日(土)に附属看護専門学校の「学校祭」が開催されます。初日の球技大会では、大学教養部牧野キャンパスにおいてバレーボールとドッジボールを行い、2日目は附属看護専門学校高殿学舎で車椅子体験、健康相談、バザー、模擬店などを開催する予定です。

多数の皆様のご来場をお待ちしています。

卒後臨床研修センター

◆5～7月の主な行事

日程	行事名	場所
6月2日	附属枚方病院・附属滝井病院卒後臨床研修合同説明会	守口ロイヤルパインズホテル
7月1日	レジナビフェア2012 in大阪 出展	インテックス大阪

日程	行事名	場所
7月7日	後期研修医合同説明会	附属枚方病院
7月25、27日	臨床研修医採用試験	附属滝井病院、附属枚方病院

レジナビフェア2012 in大阪にブース出展

研修病院合同説明会「レジナビフェア2012 in大阪」が7月1日(日)にインテックス大阪で開催されました。北は北海道から南は九州・沖縄までの基幹型臨床研修病院が単独や連合体として出展し、来場した医学生や研修医に対し自機関の良さをアピールしていました。卒後臨床研修センターでは、枚方及び滝井の両附属病院合同でブースを開設し、出席した研修医7名は、本学での研修の良さを熱心に説明しました。来場者数は会場全体で1,506名、本学のブースには88名が来訪し、興味深く説明を聞いていました。



にぎわう本学の合同ブース

ブースでは科別の詳細な説明が行われました



後期臨床研修医募集の説明会開催

後期臨床研修医募集のための各診療科合同による説明会が7月7日(土)午後2時から附属枚方病院13階の講堂及び合同カンファレンスルームを主会場に開催されました。本学研修医15名、他病院の研修医9名の参加があり、卒後臨床研修センター長の金子一成教授からの挨拶に引き続き、19診療科が出展したブース形式の科別説明会が行われました。参加した本学15名、他病院9名の研修医は、興味のある診療科のブースを訪れ、熱心に説明を聞いていました。説明会に引き続き「のぞみ」に場所を移して情報交換会が行われ、参加者は各診療科の教員から研修先に関するアドバイスを受けるなど交流を深めていました。

同窓会

同窓生80年の絆

同窓会理事 西嶋 攝子(39回生)

関西医科大学同窓会は来年(平成25年)創立80年を迎えます。

第1回生は大阪女子高等医学専門学校を昭和8年に卒業しています。第21回生と22回生は大阪女子医科大学、そして第23回生からは関西医科大学の卒業生となり、平成24年の卒業生が第80回生です。

現在、母校は黄金時代とも言える発展期の真っただ中にあります。ここに至るには80年の長きにわたる、卒業生の弛まぬ努力と献身がありました。中でも大学創設期における優秀な先輩たちの存在は、われわれの誇りであり、また挫けそうになる時の励みでもありました。



大原一枝名誉教授(4回生)からの御託けのお土産を手渡しています。ピンクのキャップは私からのプレゼントです!

その中で第1回生蔡 聯歡先生は、これまでも同窓会誌「おとづれ」で再三紹介されており、すでに多くの卒業生をご存知だと思います。

「おとづれ」第136号に、今年

のお正月に蔡 聯歡先生を柄川武子理事(34回生)とともに香港に表敬訪問した時の拙文(第1回生蔡 聯歡先生を香港に表敬訪問して -卒業生80年の絆-)を掲載していただきました。105歳になられる大先輩に直接お会いできたことは大きな感激でありましたが、また不思議な温かさを感じることの出来たひとときでもありました。

5月の同窓会と加多乃会の理事会の席で、蔡 聯歡先生に「同窓会特別賞」を差し上げることが全員一致で決まりました。23日には後見人である甥御様(Mr.Heung Sang Tsoi)にお報せしましたが、翌24日に先生はHong Kong Buddhist Hospitalでご逝去されました。

まだまだ多くの素晴らしい先輩、そしてもちろんこれから関西医科大学をさらに発展させてくれるであろう後輩たちが母校にはたくさん居るはずですよ。

来年11月3日に予定されている「関西医科大学同窓会創立80周年・財団法人加多乃会設立40周年記念祝賀会」には、多くの同窓生が一堂に会して、懐かしくて温かい、かつ力強い絆を確かめ合うことが出来れば、と願う卒業生のひとりです。

「関西医科大学同窓会創立80周年・財団法人加多乃会設立40周年記念祝賀会」

日 時：平成25年11月3日(日)午前11時～

場 所：リーガロイヤルホテル(大阪)

*「おとづれ」137号で予告、138号でご案内をさせていただきます。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成24年5月1日～8月3日 *判明分のみ)

三宅 眞理 講師 (公衆衛生学講座)	読売新聞5月21日(月)、 朝日新聞6月9日(土)	認知症の人と踊れる「いっしょに踊ろう」という曲に関する記事で、曲の制作者の一人である三宅講師のコメントが掲載されました。
岩坂 壽二 病院長 (附属滝井病院長)	産経新聞5月25日(金)	脚のだるさや倦怠感など一見狭心症とは関係ないと思われる“意外”な症状が、狭心症患者の約1割でみられるという研究成果が掲載されました。
楠本 健司 教授 覚道 奈津子 助教 (形成外科学講座)	毎日新聞 5月29日(火)夕刊	患者自身の血小板を濃縮した多血小板血漿(けっしょう)を患部に塗るだけで、床ずれなど難治性の皮膚潰瘍を治す新しい治療法を開発したという記事が掲載されました。
木村 穰 教授 (健康科学教室)	TBSテレビ「みのもんたの朝ズバッ！」 6月15日(金)午前6時15分～6時23分	中高年の健康づくりに効果があるという「腰掛タップダンス」についてコメントしました。
楠本 健司 教授 (形成外科学講座)	NHK総合テレビ「あさイチ」 6月25日(月)午前8時20分～8時30分	「お肌の細胞」に喝!! 驚き 美容医療・最前線」という特集番組に出演し、多血小板血漿(PRP)注入療法や治療上の要点などについてコメントしました。
健康科学センター	読売新聞7月3日(火)	健康科学センターの「アンチエイジングドック」に関する一般的な診断内容や仕組み、期待される効果や課題などについて詳しく紹介されました。
木村 穰 教授 (健康科学教室)	ABCテレビ「キャスト」 7月17日(火)午後5時30分～5時40分	「大人の健康診断が気になる」がテーマで、附属枚方病院のアンチエイジングドックが取り上げられ、詳しく紹介されました。
岡崎 和一 教授 (内科学第三講座)	日経メディカル 7月号	「IgG4関連疾患」をテーマにした記事の中で、この疾患の研究を世界的に牽引してきた研究班のリーダーの1人として岡崎教授が紹介されました。
岩坂 壽二 病院長 (附属滝井病院)	日本経済新聞 7月27日(金)夕刊	夏に多い脳梗塞や心筋梗塞をテーマにした特集記事で、暑さと症状の関連についてのコメントが掲載されました。
宮坂 陽子 講師 (内科学第二講座)	ABCラジオ「健やかライフ」 7月30日(月)～8月3日(金) 午前11時43分～11時53分	「不整脈」をテーマにした内容で計5回の連続放送に出演し、不整脈の症状などについて解説しました。
海堀 昌樹 講師 (外科学講座)	日経メディカルオンライン 8月2日(木)	「第10回日本臨床腫瘍学会学術集会」で発表した海堀講師の論文に関する「障害肝合併肝細胞がん患者の肝切除周術期の包括的リハビリテーションでインスリン抵抗性が改善する可能性」という題の記事が掲載されました。

このコーナーで紹介するのは、新聞は朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙、テレビはNHK、朝日、関西、毎日、読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

お知らせ

理事長杯争奪職員バレーボール大会開催

レクリエーション実行委員会企画による「第41回理事長杯争奪職員バレーボール大会」が6月30日(土)に守口市市民体育館において開催され、参加15チームによる熱戦が展開されました。成績は次のとおりです。

- 優勝：Team Emergency(附属枚方病院)
準優勝：脳心棟(附属滝井病院)
第3位：F-Cup Overs(附属滝井病院)
第4位：チーム横(附属滝井病院)



優勝したTeam Emergencyの皆さん

編集後記

「変わらなきゃ」。十数年前、現メジャーリーガー・イチロー選手が出演した自動車会社のCMのフレーズが話題になりました。“変わる”ことは勇気がある一方で、大きなリターンを生むチャンスです。私たち一人ひとりの変わろうとする気持ちが大切なのではないでしょうか。

今号の特集は「入試改革」をテーマにしました。志願者の増加や幅広い地域の受験生の獲得に向けて、従来よりも積極的に取り組み、大幅な改革を進めている本学の入試について紹介しています。

また本学の「業務改善コンテスト」の上位チームの取り組み内容も掲載しています。各チームが工夫し、成果につなげた事例を参考にしてください。そして「変える」という視点で業務に取り組み、さらなる職場改善につなげましょう。(起)

関西医科大学広報 Vol.18

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成24年8月30日(木)発行